

## 要介護高齢者・入院高齢者における感染予防（誤嚥性肺炎予防）等に対する対策

池邊 一典

大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座 有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野

日本人の死因第7位である誤嚥性肺炎は、その約9割が高齢者に生じている。特に要介護高齢者にとって誤嚥性肺炎は、入院を余儀なくされるだけでなく、入院中に禁食となりやすく、その結果、経口摂取のための口腔機能の廃用が生じ、胃瘻による栄養が選択され、入院期間が長期になることも少なくない。そのため、誤嚥性肺炎の予防は要介護高齢者・入院高齢者にとって重要な課題である。

誤嚥性肺炎の発症には、唾液や食物の誤嚥、咀嚼不良、咳嗽不良、栄養不良が関連する。そのため誤嚥性肺炎の予防には、口腔ケアによる口腔衛生管理、摂食嚥下リハビリテーション、補綴歯科治療、栄養管理などの包括的アプローチが極めて重要である。

なかでも、誤嚥性肺炎に対する口腔ケアの有効性は世界的に認識されているが、これは我が国の臨床研究から端をなしたものである。Yoneyama ら[1,2]は、要介護高齢者に対して週1回の専門的な口腔ケアを歯科医療従事者が行うことで、誤嚥性肺炎の発症が有意に減少することを世界で初めて明らかにした。また、口腔内の細菌数が多いほど誤嚥性肺炎が発症しやすいこと[3]、歯周病を有する歯が多いほど誤嚥性肺炎での死亡率が高いこと[4]なども明らかにされ、看護や介護だけでなく、歯科による専門的な口腔衛生管理が誤嚥性肺炎の予防に重要であることが、国際的にも周知され始めている。

さらに、我が国では要介護高齢者が装着することが多い義歯や咬合と誤嚥性肺炎の関連に焦点を当てた臨床研究が複数報告されている。こうした口腔衛生にとどまらず義歯を含めた口腔機能管理と誤嚥性肺炎との関連を歯科補綴学的観点から解明することは、国際的にも独創性の高い取り組みである。これまでに、誤嚥性肺炎の発症には嚥下機能低下だけではなく、咀嚼による食塊形成能低下が関連すること[5]、要介護高齢者への義歯装着により誤嚥性肺炎のリスクが減少する可能性があること[6]、誤嚥性肺炎が多い脳卒中急性期だけではなく回復期に義歯治療を継続させる必要性があること[7]、85歳以上の超高齢者では就寝中の義歯装着が肺炎のリスクを2倍にすること[8]、歯の喪失が肺炎による死亡率を上昇させること[9]などが明らかとなっている。

以上のような、誤嚥性肺炎予防に関しては、現在まで口腔衛生管理のみならず歯科補綴治療を中心とした口腔機能管理の有効性についての優れた臨床研究が我が国から多数報告されている。それらのエビデンスを基に、介護施設における「口腔衛生管理加算」や「周術期口腔機能管理」として国民健康保険や介護保険

に導入され、研究の社会実装が行われている展は特筆すべきである。

今後の課題として、口腔衛生状態や口腔機能の客観的評価法を標準化し、ビッグデータとして解析し、誤嚥性肺炎予防や介護予防、健康寿命延伸に対する効果を全国レベルで解明する必要がある。そのために、それらのデータを、国際的にわが国が先駆けて行っている医科歯科連携、医療介護連携を推進するための根拠とする。

#### 利益相反

本論文に関して、開示すべき利益相反状態はありません。

#### 参考文献

- [1] Yoneyama T, et al. Lancet. 354:515, 1999 (IF:292.731, 被引用回数 251)
- [2] Yoneyama T, et al. J Am Geriatr Soc. 50:430-433, 2002 (IF:7.538, 被引用回数 516)
- [3] Kikutani T, et al. Geriatr Gerontol Int. 15:417-421, 2015 (IF:3.387, 被引用回数 37)
- [4] Awano S, et al. J Dent Res. 87:334-339, 2008 (IF:8.924, 被引用回数 186)
- [5] Hase T, et al. J Oral Rehabil. 47:53-60, 2020 (IF:3.558, 被引用回数 6)
- [6] Takeuchi K, et al. Int J Environ Res Public Health. 16:554, 2019 (IF:4.614, 被引用回数 7)
- [7] Obaba M, et al. J Oral Rehabil. 46:1170-1176, 2019 (IF:3.558, 被引用回数 19)
- [8] Iinuma T, et al. J Dent Res. 94:28S-36S, 2015 (IF:8.924, 被引用回数 100)
- [9] Suma S, et al. PLoS One. 13:e0195813, 2018 (IF:3.752, 被引用回数 18)